

透析低血圧を伴う高齢透析患者に対する friendly-HdFの有用性

○人見友啓、渡邊歩未、鈴木翔太、山岡将陽、鈴木一裕
(医)援腎会すすきクリニック

第25回 日本HDF研究会 COI 開示

筆頭発表者名： 人見 友啓

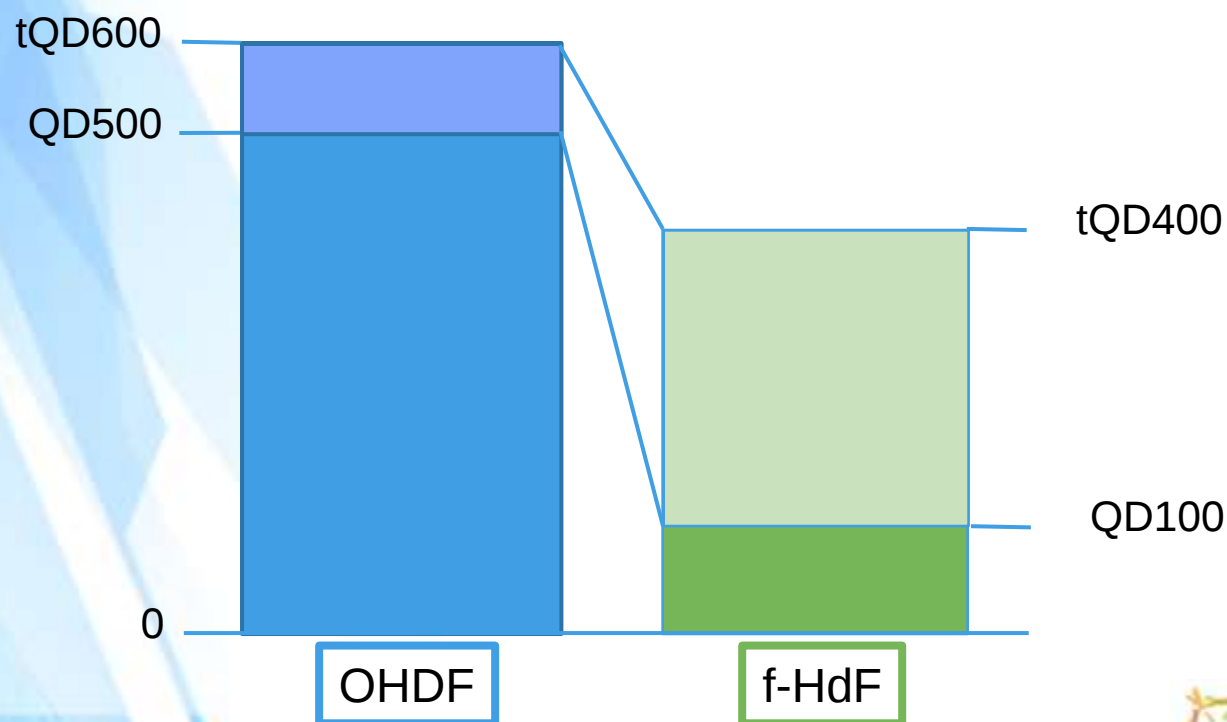
演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。

【目的】

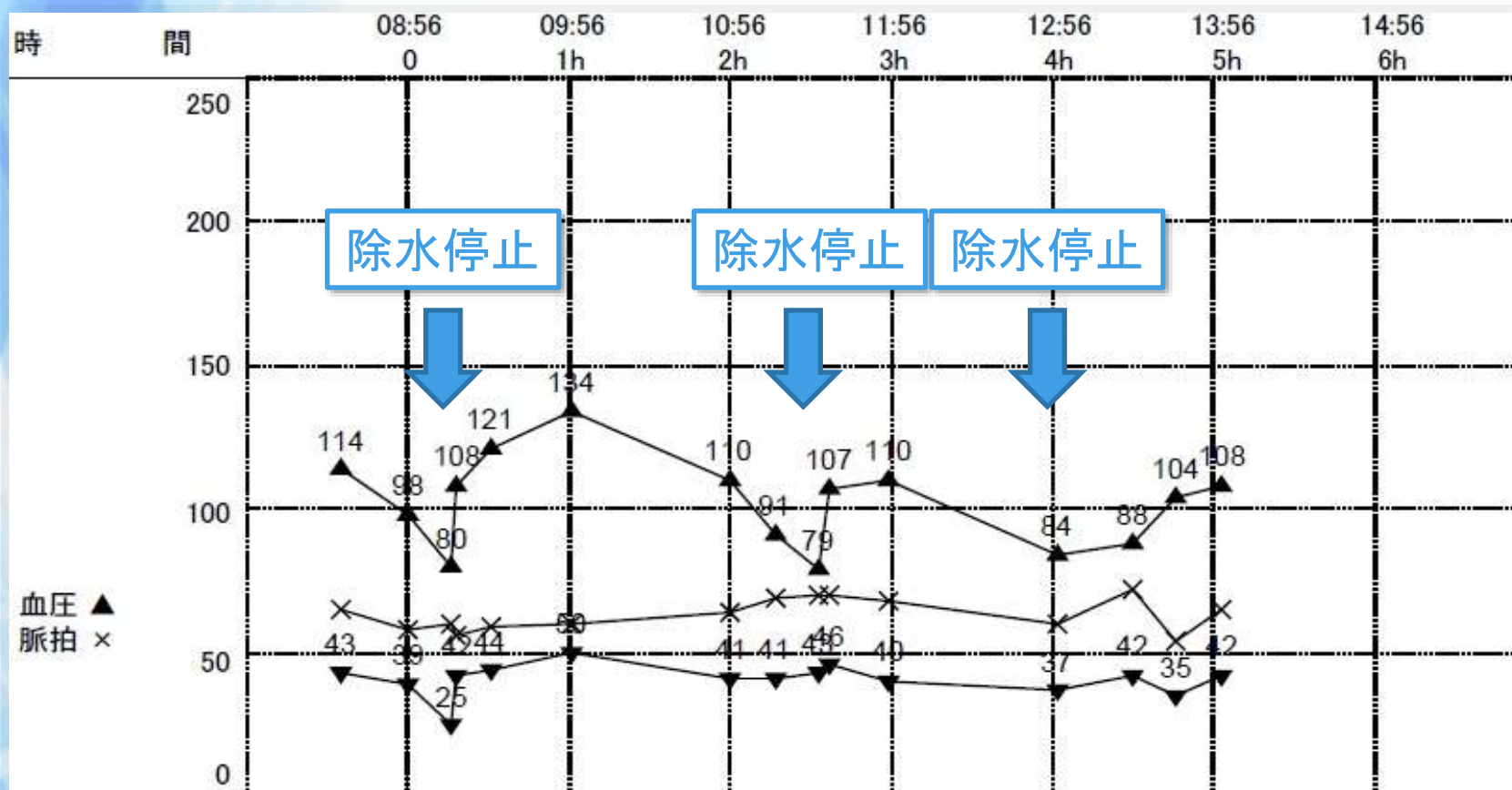
- 第24回日本HDF研究会学術集会・総会にて下門らは、限りなくHFに近いオンラインHDFを実施することで血圧低下を防ぐことを報告している。
- 当院の透析低血圧（以下、IDH）をきたす高齢透析患者に対して、friendly-Hemo dialysis Filtration（以下f-HdF）を施行し有効であった症例を報告する。

【 f-HdF : friendly-Hemo dialysis Filtrationとは】

- HFに近い条件までQSを上げる事でIDHを防ぐ
(friendly=体に優しい)
- QDは100mL/min程度とする
(dalysis=拡散が少ないので”d”は小文字)



【患者背景】86歳、女性、腎硬化症、透析歴：6年



IDHを頻回に繰り返し、透析困難症の患者

【患者背景】心エコー所見



<AV>

弁尖部石灰化(+)、可動性低下。

max velo. = 4.5 m/s. max PG = 81 mmHg. AVA = 0.6 cm².

AS (severe).

$$\overline{\text{AR(trivial)}}.$$

✓ AS severe

重度の大動脈弁狭窄が見られる!!



【方法】

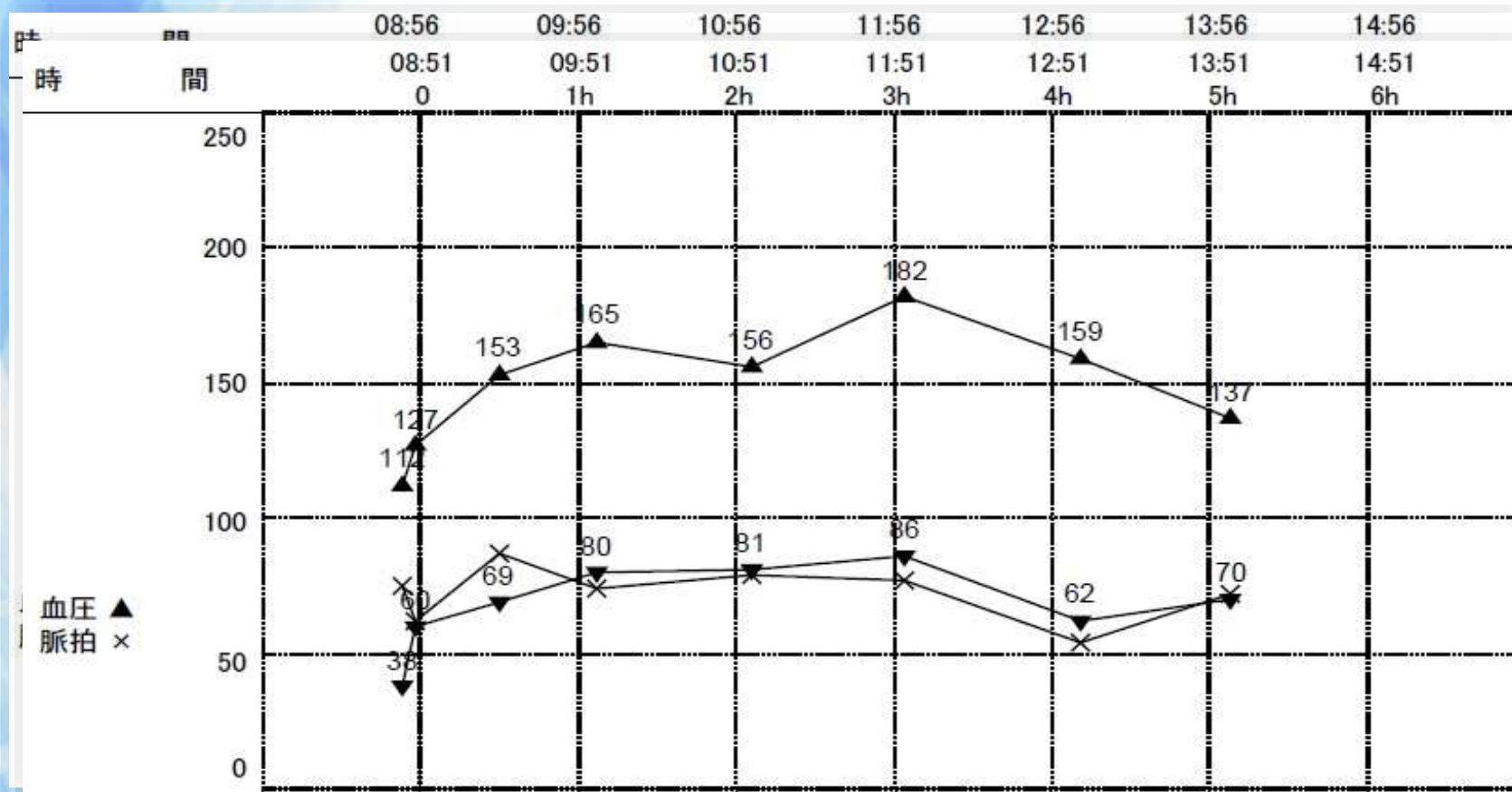
項目	OHDF600(30L)	OHDF550 (90L)	f-HdF400(90L)
期間	1ヶ月(14回)	1ヶ月(14回)	1ヶ月(14回)
透析方法	OHDF	OHDF	f-HdF
透析器	TDF-15HV	FIX-210Seco	FIX-210Seco
QB[mL/min]	300	300	300
QS[mL/min]	100	300 ↑	300 ↑
QD[mL/min]	500	250 ↓	100 ↓↓
tQD[mL/min]	600	550 ↓	400 ↓↓

(評価項目)各項目1ヶ月間

- 処置回数(除水停止・生食補液・下肢挙上...etc)
- 収縮期血圧、平均血圧、Kt/V

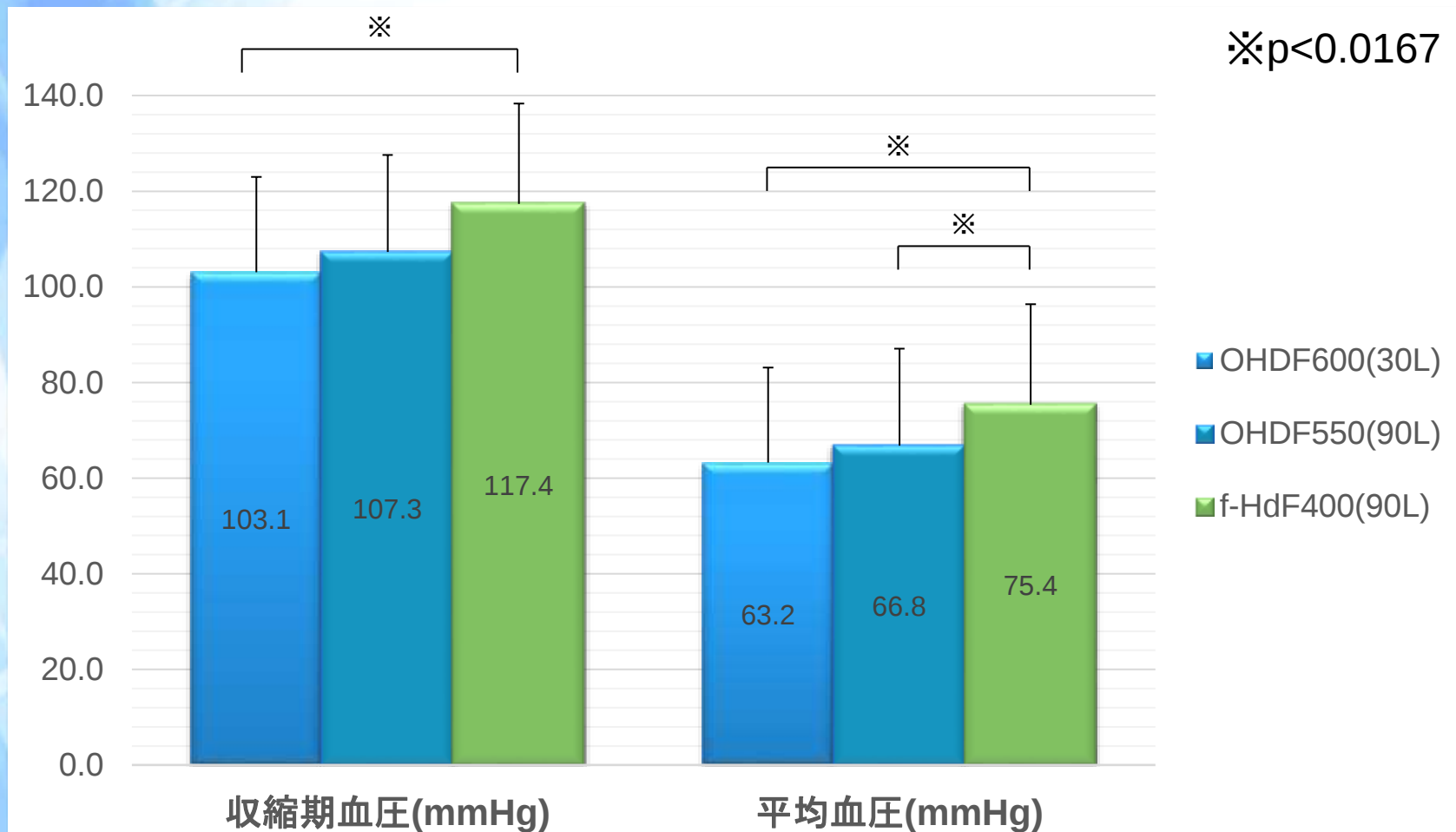
※Bonferroni法を用い、有意水準を1.67%とした

【結果】f-HdF400(90L)変更後



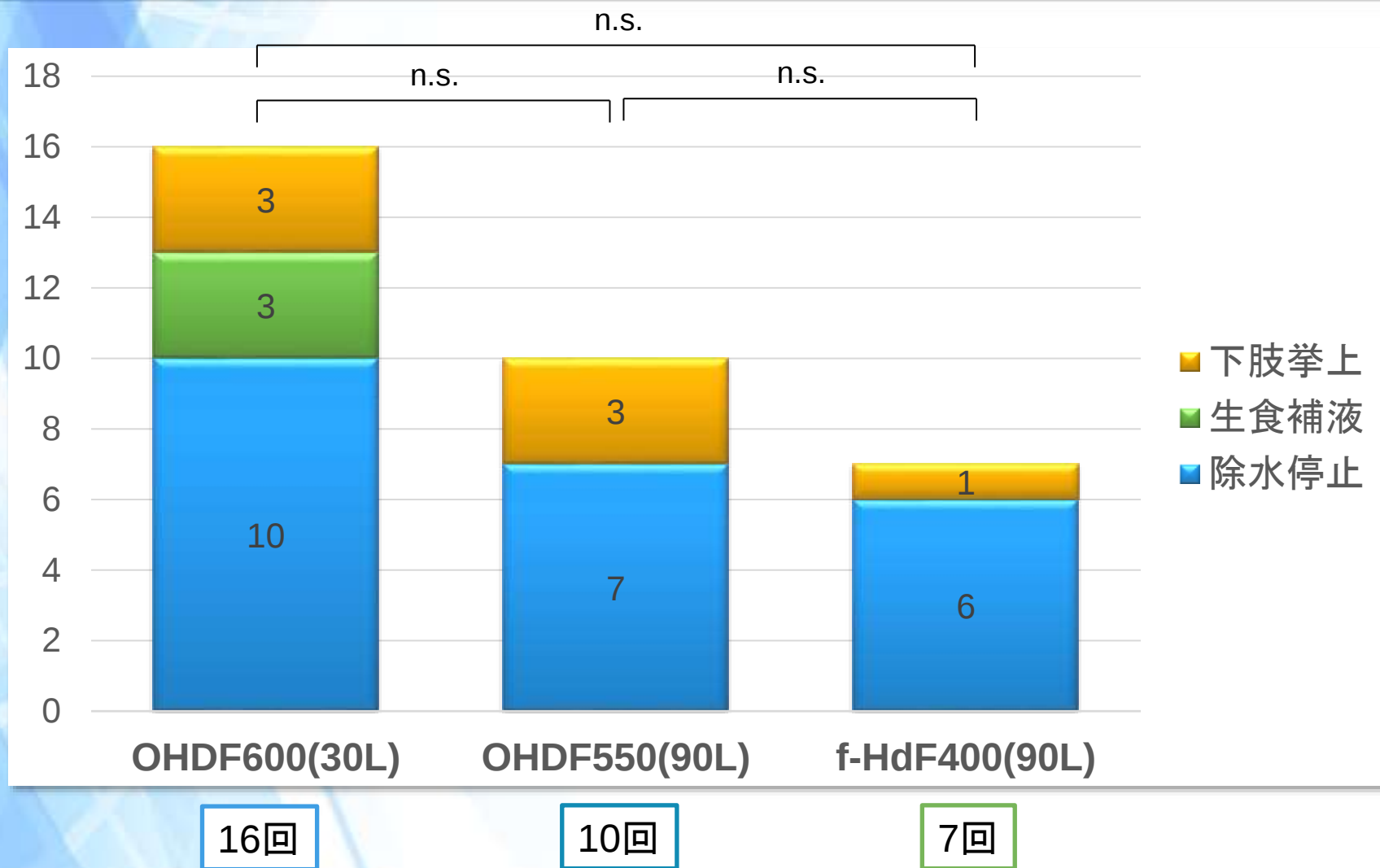
変更後、透析中の血圧低下が少なくなった!!

【結果】

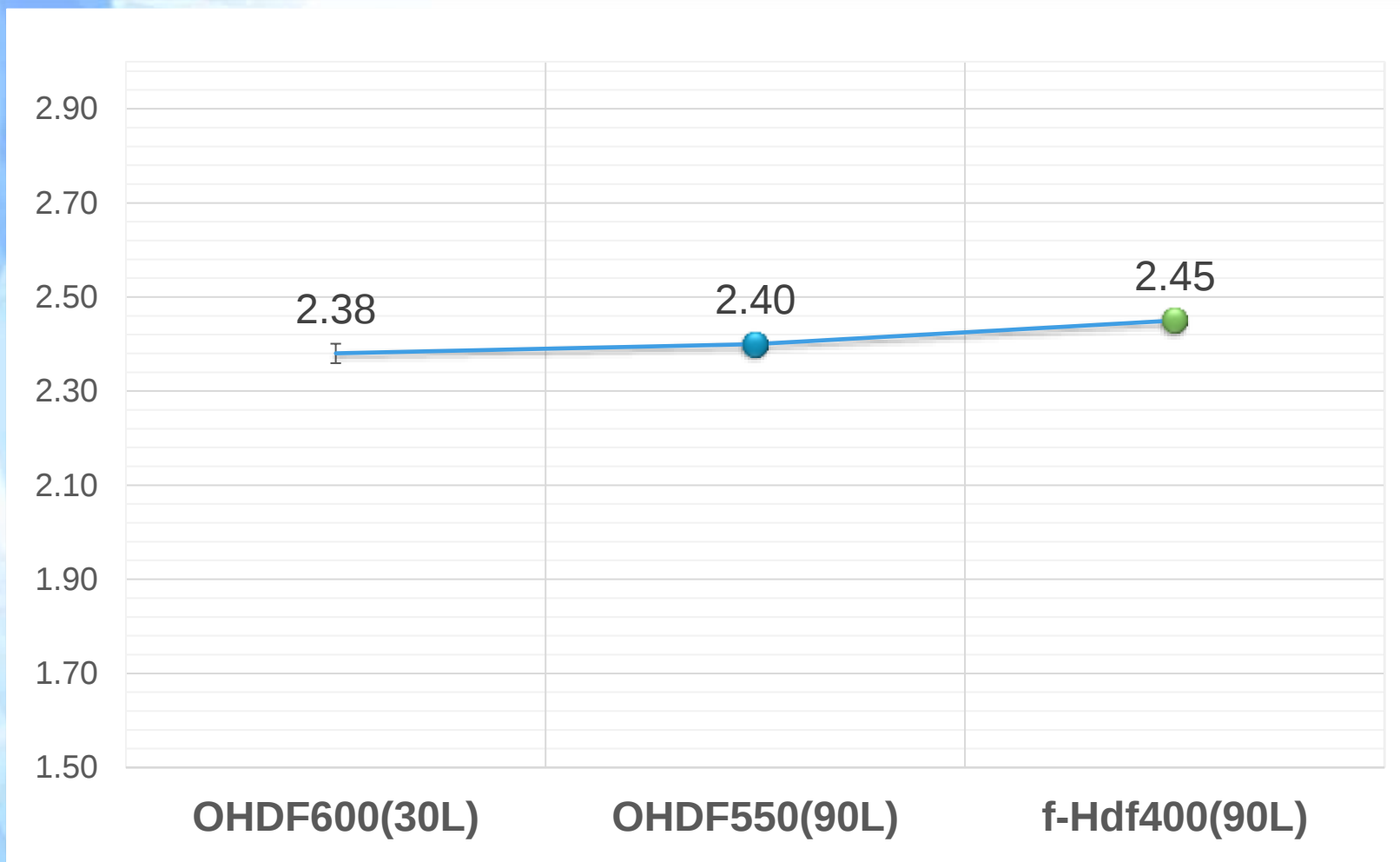


【結果】処置回数

治療期間での1ヶ月(14回)で比較



【結果】Kt/V



【考察】

- 今回の検証では、OHDFで補液量を増加させるよりも、QDを100mL/minまで減少させたf-HdFにすることで処置回数および収縮期血圧に改善傾向が見られた。
- これはtQDを400mL/minに減少させた方がBUN除去は更に緩徐となり、急激な浸透圧変化を防げたこととGibbs-Donan効果によるNa除去量の減少効果と推察される。
- 今回はQBを変えずに検証を行ったため、 Kt/V も維持したままIDHを回避できたが、今後、効果が不十分の場合はQBを下げることも考慮したい。

【結語】

- f-HdFはQDを限りなく減少させOHFの状態に近づけることで、IDHを伴う高齢透析患者に有効な手段となる。